

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市社会福祉審議会第52回(令和7年度第3回)高齢者福祉等専門分科会		
事務局 (担当課)		健康福祉局地域包括ケア推進部地域包括ケア推進課 電話 042-769-9222(直通)		
開催日時		令和8年3月27日(金)10時00分~12時00分		
出席者	委員	8人(別紙のとおり)		
	その他			
	事務局	地域包括ケア推進部長、地域包括ケア推進課長、 在宅医療・介護連携支援センター所長、福祉基盤課長、 高齢・障害者福祉課長、高齢・障害者支援課長、介護保険課長、 中央高齢・障害者相談課長、住宅課長ほか6名		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				

会議次第	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 あいさつ3 議題<ol style="list-style-type: none">(1) 令和8年度当初予算（高齢福祉関連）の概要について(2) 高齢者等実態調査の結果について(3) 第10期相模原市高齢者保健福祉計画の策定について4 その他5 閉会
------	--

審 議 経 過

内容は次のとおり。

1 開会

2 あいさつ

地域包括ケア推進部長よりあいさつを行った。

3 議題（★：対応結果）

（1）令和8年度当初予算（高齢者福祉関連）の概要について

【事務局】資料1により、令和8年度当初予算（高齢者福祉関連）の概要について説明を行った。

（大神田委員）

（仮称）さがみはらシニアフェスティバルの開催が新規事業として予算計上されていることについて、関わるものとしては身の引き締まる思いである。市と協力して実りあるフェスティバルにしていきたい。

【事務局】

高齢者の外出や交流のきっかけとなるフェスティバルを開催するにあたり、老人クラブ連合会の力を借りながら進めていきたいと考えている。歌謡コンサートのほか、高齢関係団体によるブース出展も予定しており、老人クラブへの参加やシルバー人材センターへの加入など、今後の外出機会の創出につなげていきたい。

（宮崎委員）

かなちゃんパスについて、地域の方から「値上げにより使えなくなった」との声があった。実際にどの程度の方が利用しているのか、また金額について説明をお願いしたい。

【事務局】

かなちゃんパス1年券について、価格は54,000円であるが、この半額を助成し、27,000円で購入できるようにする予定である。市から、70歳以上の方全員にクーポン券を5月下旬から6月くらいを目途にお送りし、それを持って窓

口へ行くと27,000円で購入できるものとなっている。

主な交通手段でバスを使う高齢者の方が6,500人程いるようで、目標はその方々を倍に増やしたいと考えている。市としては13,000人程度を見込み、予算を計上している。

(荒谷委員)

あじさい会館の2階にボランティア協会の事務所があるが、個人情報保護の観点から別の場所へ移ってほしいとの声があり、来週から4階に引越しをする。3月30日から4階で活動を開始する予定であるので、よろしく願いしたい。

(大久保委員)

3点お話ししたい。

1点目は、令和8年度の高齢福祉関連の当初予算額は市全体予算の何パーセントにあたるのか。また、他の政令指定都市と比較として遜色ないのか。お伺いしたい。

2点目として、カスタマーハラスメント対策の推進は心強い取組である。あわせて、各企業や各福祉施設におけるカスタマーハラスメント規定の整備についても同時に進めていただきたい。

3点目は、かなちゃんパスについてである。推進していただけるのはありがたいが、利用者が行きたい場所は主に病院や生活物資を購入するスーパー等である。そうした場所へ行けるバス路線が意外にないと感じてる。

また、北里大学病院へ行くためのバス路線が、あらゆる方向から整備されているわけではなく、特定路線からしかアクセスできない状況である。こういったことの改善についてもバス会社と協議しながら調整を進めていただきたい。その上で、かなちゃんパスが使えると有益であるので検討をお願いしたい。

【事務局】

カスタマーハラスメント対策については、相談窓口を直接設置するのではなく、対応可能な事業者を選定し、事業者から電話やメールで相談を受け付ける仕組みを想定している。その中で法的な対応が必要な案件については、専用の無料法律相談に繋げるような形を予定している。

また、年1回程度になるかと思うが、各事業者向けの研修も実施する予定である。県の財源を活用する予定であり、現在内部手続きを進めているが、開始は6月頃になる見込みである。

かなちゃんパスについて、病院までのバス路線の必要性は十分認識しているが、運転士不足等の事情により、バス路線の新設は難しい状況であると聞いている。かなちゃんパスは乗り継ぎも無料であるため、乗り継ぎによる利用も含めて活用いた

だきたい。

当初予算についてだが、令和8年度の一般会計の総額は4055億円であり、一般会計のみで見ると、うち高齢者福祉関連は約0.8パーセントである。他市の数値については、資料を持ち合わせておらず、申し訳ない。

★令和8年度の一般会計と特別会計の当初予算の総額は6,180億円であり、うち約11パーセントが高齢者福祉関連の予算となっている。高齢福祉関連予算の他市との比較においては、人口規模および高齢化率などの前提条件が自治体ごとに異なるため、単純に比較するのは難しい。今後も本市の実情にあった予算の在り方を検討していきたい。

(大久保委員)

この点を確認した理由としては、地域間格差が大きくなっていると感じているためである。それによって保育や介護サービス事業においても、他市との料金体系の違いにより利用者が流出する状況がある。市の予算がその点を意識して検討されているのか確認したかった。

(笹野委員)

高齢者福祉関連の一般会計予算が昨年度よりも約14億円減となっている点について、理由を改めて確認したい。

【事務局】

一般会計の一部を介護特会へ振り替えたことにより、一般会計上は14億円の減少として見えているものである。予算の振り分け変更によるものをご承知していただきたい。

(篠塚委員)

指定管理施設のLEDということで、LED化は社会福祉施設全てではないということよろしいか。このあとLED化を待ってる施設はあるか。

【事務局】

令和8年度にLED化を実施することで、高齢者に関する施設は概ねカバーできる。

資料に載っていない施設のうち、新磯ふれあいセンターは、指定管理業者の努力もありLED化が完了している。溪松園、若竹園は、施設の在り方の検討を行っており、今後再整備を行う場合、ここでLED化すると工事費が無駄になるため、当

面行う予定はない。

(2) 高齢者等実態調査の結果について

【事務局】資料2により、高齢者等実態調査の結果について説明を行った。

(武部委員)

とても重要な結果だと思う。一般調査において、アンケート調査の回答で、「趣味がある」および「生きがい」があると回答された方が多い結果となっている。一方で、地域の支え合いに参加する方は少ない結果となっており、これらの結果から、元気なうちは趣味・生きがいがある反面、地域のつながりは求めていると推測される。このような方々が介護予防、介護認定の年齢になると、つながりが消えて行き、孤立・孤独になると思われる。

以上の可能性がある中で、一人で行う趣味と他者とのつながりが生まれる趣味では、結果に違いがでると思う。ここに介入の芽があると考えている。アンケート調査の回答について、どのような内容の趣味が挙げられていたのか、データがあれば示していただきたい。

【事務局】

当該データについては集計中であるため、後日提示させていただきたい。

(大神田委員)

項目に沿って、感じたことが5点ある。

1点目は、情報の入手についての設問について、資料にあるとおり、デジタル活用の広がりを感じている。デジタル化が広がればSNS等も有効な手段になるかと思っている。

2点目に、地域活動の参加活動を問う設問について、一般調査・介護調査ともに「参加していない」という回答が多く、現状を反映していると感じているが、資料のとおり、前回調査を上回る結果となっている。

3点目は、地域の支え合い活動についての設問があるが、ささえあい活動への参加意向について、「活動するつもり」と回答した割合が前回と比べ減少してきている。何か枠にはまった支え合いではなくて、もっと緩やかな支えあいについて理解を深めていく必要がある。

4つ目は、フレイル予防や介護予防のために行っていることに関する設問であるが、ウォーキングや栄養バランスがとれた食事の摂取、口腔の清潔保持と回答した方が増えており、自ら健康の維持に努めようとする意識が高まっていると感じた。

5つ目は、今後、どこで介護を受けたいかという設問について、「引き続き自宅で介護を受けたい」が1.5ポイント増加しており、地域における支え合いの重要性が高まっていることを示していると感じた。

【事務局】

項目に沿ったご意見・ご感想をいただき、感謝申し上げます。

調査結果は詳細に整理し、次年度以降、第10期計画の検討に反映していきたい。

(篠塚委員)

自治会や地域包括支援センター等が連携して、介護予防活動に資する通いの場を周知していて、その数も増えている。それにも関わらず、「参加していない」との回答が多いことは大変残念である。また、オーラルフレイル等の啓発活動に取り組んでいるが参加者が固定化されていて、新しい人は増えていかないというところが現状であり、周知方法は本当に難しいと考えている。

SNSの影響力も高まっており、その活用も含め、周知方法については検討が必要である。また、「オーラルフレイル」「リエイブルメント」などの専門用語については、高齢者にとって理解が難しく、認知されにくいと感じている。

【事務局】

先ほど、通いの場の周知というお話があった。現在、本市では「さがみほらみんなの地域情報ナビ（通称：さがみんナビ）」という地域資源を検索できるシステムを運用している。今後も周知方法を工夫し、市民に分かりやすく情報を提供できるよう努めていきたい。

(笹野委員)

実際に活動されている方は感じていると思うが、地域活動が活発に見える地域でも、参加していない人は依然として参加していない状況がある。家族構成やライフスタイルの変化が大きく影響していると感じている。高齢者の単身世帯や高齢者のみの世帯などが、本市では情報難民になっている。そのような方たちが自活自立できているかという点、必ずしもそうではなく、離れてるお子さんなどに頼っている状況もある。若い世代の考え方が変わらないといけないと感じており、単身高齢者や高齢者のみの世帯に働きかけるのはかなり難しいと思う。

今回は65歳以上を対象としたアンケートであるが、もしかしたら、アンケート対象の方よりも、もっとその子供世代である40代あるいは50代への働きかけも必要かなと感じる。その世代の考え方を確認する必要があると思う。本来であれば、65歳以上の方は新聞や広報紙の紙面から情報を得ていると思うが、新聞を取らな

い、折込みの広報も見ないという状況がある。

孤独死のケースでは、兆候として新聞が溜まっているということがあがるが、新聞を取らない傾向があるため、それを見抜けないという警察のお話を聞いたことがある。事務局から話があったように、インターネットやホームページで情報公開しているが、それが伝わっているのかという点は非常に難しい問題であり、篠塚委員のご指摘のように、その周知については相当の工夫を重ねていかなければならないと感じている。

(大神田委員)

「新しい認知症観」の言葉の認知度が低いというところについて、今までの認知症観では、引退したので、あとは周りの人が自分の面倒を見てくれるというイメージだったと思うが、「新しい認知症観」というのは、高齢者は身体の動きは鈍くなっていくが、経験は豊かだし知恵もあり、引退したからそれを捨てるのではなく、地域などでその能力を発揮して、やりがいや生きがいを見つけていくという考え方である。

「新しい認知症観」を皆さんに分かっていただけると、生きがいを見つけることにつながり、最終的に自分の健康に役立っていくと感じている。

(武部委員)

「主な介護者」の年齢層として、40代、50代、60代の方のデータだと思うが、仕事がすごく忙しいが、調整しながら介護されていて、もっと仕事を休みやすくしてほしいというのが気持ちとしてあると思う。仕事と介護で手一杯で忙しくて地域の活動に参加できない方々が、おそらく40代後半からであり、このままこの方たちが高齢者になっていくと、通いの場への参加も定着しないと思っている。そのため、高齢になる前の世代に対しても、分かりやすいメッセージや周知が必要ではないかと感じている。

(島森委員)

高齢者は、経験とか技能を有している一方で、考え方が一固定化している部分もある。若い世代とボランティアなどで関わる中で、私たちにない発想を感じた。若い世代の力も借りながら、協働していくことが重要である。

「オーラルフレイル」などの用語については、意味を知らない方も多いため、調査票に用いる際には説明を付す配慮がほしかった。

また、引越しの検討状況に関する設問について、「公営賃貸住宅」が最も多いが、それがどういうものなのか教えてほしい。

【事務局】

公営住宅は、住宅に困窮する低額所得者の方々のための住宅である。相模原市に置き換えると市営住宅と県営住宅がこれにあたる。

アンケートで公営住宅を選択するということは、住宅に困窮している、または低額所得者であるということの背景があるかと考えている。

市営住宅に関しては、年に数回の定期募集となっており、直近だと令和7年11月に定期募集をおこなったところである。全部で92戸の募集をおこない、倍率が8.3倍という結果であった。中身をみると単身高齢者向けの住宅の倍率が約2.1倍である。一般単身者向けの住宅については3.8倍であった。年々、単身のお部屋をご希望され方々が増えているというのが実情である。

本市はファミリータイプがたくさんあり、単身タイプは少ない状況である。

国ではセーフティネット住宅というものも整備しているところであり、社会情勢、人口減少を踏まえながら、単身の市営住宅の在り方というものも、今後の検討の課題として捉えている。

★公共賃貸住宅者数は12,647戸（市営住宅2,764戸、県営住宅4,248戸、都市再生機構（UR）4,027戸、県公社1,608戸 ※令和7年1月1日現在）

（大久保委員）

相模原市の高齢者施策の優先度を問う設問の選択肢の中に、有料老人ホームの充実や在宅系サービスの充実を選択することができる。他の研究機関のアンケートにおいても、どのような施設に入りたいのかを問う設問があるが、年代によってニーズが違うため、年齢で分けしないと結果が導きにくい。10期計画の整備計画等にも影響してくると思うので、結果を的確に捉えられるようにしていただきたい。

【事務局】

クロス集計で動きはつかめると思う。来年度はその結果を踏まえ、計画策定の中で検討していきたい。

（3）第10期相模原市高齢者保健福祉計画の策定について

【事務局】資料3により、第10期相模原市高齢者保健福祉計画についての説明を行った。

（笹野委員）

今回は、現状と国の動向等を示していただいた、令和8年度は計画の策定のために5回開催するのでよろしくお願いしたい。議題は以上だが、他に何かあるか。

4 その他

【事務局】

令和8年度当初予算の概要説明に関連し、一般会計および介護保険特別会計の主な増減内容について補足説明する。

一般会計については、施設開設準備経費等支援事業費補助金が約7億5000万円減、地域密着型サービス等整備費補助金が約5億7000万円減である。

介護保険特別会計については、居宅介護サービス給付費が約14億円増、地域密着型介護サービス給付費が約11億円増である。

【事務局】 人事異動について報告を行った。

5 閉会

以 上

相模原市社会福祉審議会高齢者福祉等専門分科会 委員名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	荒 谷 進	特定非営利活動法人相模原ボランティア協会		出席
2	梅 澤 慎 一	一般社団法人相模原市医師会		欠席
3	大久保 祐 次	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会	職務代理	出席
4	岡 城 孝 雄	相模原市民生委員児童委員協議会		欠席
5	大神田 賢	相模原市老人クラブ連合会		出席
6	佐々木 学	相模原公共職業安定所		欠席
7	笹 野 章 央	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会	会 長	出席
8	篠 塚 実希子	相模原市自治会連合会		出席
9	島 森 政 子	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会		出席
10	武 部 正 明	学校法人相模女子大学		出席
11	田 中 雄一郎	相模原市歯科医師会		欠席
12	宮 崎 文 枝	相模原人権擁護委員協議会		出席